

So, You! 早友学院

今年も学院生はよくがんばりました！！

早友学院学院長 高久 富司夫

合格おめでとう

◆公立中高一貫校受験◆私立中学受験◆高校受験◆大学受験

北里大学海洋生命科学部
東京電機大学工学部
東京理科大学工学部
千葉工業大学工学部

【国立高校】東京工業大学附属科学技術

合格体験記

S・Y（東京大学附属中等教育学校 合格）

私は小学三年生から塾に通っています。毎週塾に通うのが楽しく忘れたことはほぼありません。毎週塾に通っていたおかげで苦手な教科もしだいに解けるようになりました。小六になった時塾の先生から東大附属を受験したら、とすすめられました。学校の文化祭に行ったとき、本格的にこの学校に行きたいな、と思いました。家にはいろいろ誘惑があったので休日も平日も塾で自習していました。違う学校に受験する仲間と一緒にわからないところを解いていたりしていました。受験の前日まで塾に通うことで仲間の顔をみて平常心をとりもどしていました。受験当日はあまりきんちょうしておらず、合格の発表を聞いた時もそんなにおどきませんでした。ほくを合格させてくれた父と母に今も感謝しています。

S・Y 保護者

早友学院には小学校3年生から通っています。塾は欠かさず通っていました。塾での勉強が楽しい、というよりは塾に行くことそのものが楽しいと思っていたように見えました。この塾で4年間にわたる勉強が基礎学力を付けてくれたと思います。家での勉強は積極的にやりません。遊びという誘惑に非常に弱いので受験までの約1年間はテレビ、ゲーム、マンガは一切できない環境にしました。社会の問題に強くなるために、読売中高生新聞を秋から取り始めました。毎週金曜日に届くのですが、まるでそれしか娯楽がないかのように届くのを楽しみにしており、ほとんど全ての記事に目を通していました。作文は苦手ですが人が書いた文章を読むのは昔から好きなので知識の吸収には役買ったのではないかとっています。希望校は最初から1校だけでした。側から見ていると「どうしてもここに行きたい」という迫力のようなものは最後まで一切感じられませんでした。10月の文化祭に訪問したことが「ここにいる生徒達のように楽しく過ごしたい」「今いる小学校のクラスメイトとは別の人間関係の中で過ごしたい」というような思いを彼の中に芽生えさせたのではないかと推察しています。

N・Y（都立両国高校附属中学校 合格）

私は五年生から早友学院に通いはじめました。最初の頃は作文など全く書けませんでした。が、塾の友達や先生に教えてもらい、何と書けるようになりました。六年生となり、過去問をやったり、模試や日曜特訓をやり、本番へや経験を積み重ねていきました。自習は毎日過去問を模試と同じようにやりました。本番当日は、頭をすっきりさせるために、早寝早起きをするのが大切です。試験前には、復習など、無駄に頭を使わず、始まるまで深呼吸をしていました。試験が始まり、「今までががんばってきたんだ。大丈夫だぞ。」と自分の心に言いました。内緒でラムネを食べて糖分補給をし、自分でも全力が出せたと思いました。受かっても遊んでばかりではいけません。しっかりと学校の課題と部活を両立できるようにしていきたいです。この作文を書けるまで、多くの人に支えられてきました。それを裏切らないように、がんばっていきます。

M・T（都立両国高校附属中学校 合格）

受験をやりたいと言い出した小学4年生の時、今まで放課後で遊んでいた友達と遊ばなくなったり、今まで通っていた習い事をやめたりなど、勉強に集中するために様々な事をやめました。受験をやりたいと言い出してから1年がたった小学5年生の夏休みや冬休みの長期にわたる休みの時、友達はみんな遊んでいるのに私だけ塾での夏期講習や冬期講習によって遊ばませんでした。そのため、やっぱり受験なんてしなければよかったと後悔した時もありましたが、塾が私を支えてくれたおかげでがんばることができました。受験終ばんの6年生の時、受験当日までの予定をカレンダーにして計画的に勉強していました。志望校の受験の2日前にあったすべり止め校の受験で落ちてしまいましたが、塾に行くと先生から平常心でいれば大丈夫という助言をもらえたため、合格することができました。ありがとうございました。

M・T 保護者

受験をしないと自ら言い出したのが小学4年生の時で、全てが終った約3年間を振り返ると、やはり後半、小学校6年生になってからが本人も親も精神的にきつかったと思います。塾の先生からは、男の子はスイッチが入るのが遅い傾向にあると聞かされていたのですが、試験が近づいても一向にスイッチが入らない我が子を見てみると、イライラしてしまい、距離をとった時もありました。自分でも焦りを感じていたのか、変にあたったり、ふさぎこんだりしていた時もありました。親子もندوقや体験ネタ帳など、良い教材を塾ではたくさん用意してくださっていたのですが、反抗期と重なり、なかなかうちはしっかり取り組むことができませんでした。そんな我が子だったので、なるべく勉強は塾で行ってもらい、先生に全面的にサポートして頂きました。滑り止めの私立に落ちた当日も行かせて頂き、大変ありがたかったです。早友にお世話になり、うちの子は合格することができました。ありがとうございました。

I・R（都立両国高校附属中学校 合格）

私が都立両国中学校を本格的に目指したのは、六年生の夏休みの体験授業や説明会に参加し、強くひかれたからです。明確な解答のある問題を好む私にとって、適性検査は手強く、その苦手意識は最後まででくありませんでした。作文も得意とは言えませんでしたし、正直都立を目指したことを後悔した日も少なくはありません。不得手な作文を中心とした適性検査Ⅰは合格最低ラインを目指し、比較的得意で楽しく勉強のできる適性検査Ⅲで点数を取ろうと考え努力しました。父や母に問題を教えてもらい、解答の添削をしてもらいながら、少しずつ適性検査に慣れていきました。また、早友での授業は新鮮で毎回面白く、飽きずに参加させていただいたことをとても感謝しています。問題を正しく理解すること、解くための基礎学力を身に付けておくこと、合格に必要な大切な要素だと考えます。それからやはり健康であること。受験の時期は体調を崩しやすく、精神的にも疲労が積み重なるため、健やかに過ごせるよう気を付ける必要があります。毎日の計画的な積み重ねが合格につながったのではないかと考えています。

N・A（都立両国高校附属中学校 合格）

この受験期を通して、自分のペースに合った進め方をすることが大切だと学んだ。なぜなら、自分の考え方を根本におくことで良い結果を出せたからだ。私が受験を志したのは、作文が上手になりましたかったからだ。そのため、私の中では長い間、受験は作文の力試しだととらえていた。その気持ちがあったから、勉強に身が入らず、周りと比べてはあせていた。しかし、よけいに勉強に集中できなくなったため、自分のペースを守り続けた。もし、他の人と同じように必死に勉強したら、より高いレベルの学校へ入れたかもしれない。ただ、その方法が合わず無理をする と本来転倒になる。自分を一番知っている自分自身が、一番適した方法を探すことが大切なのだ。これから先、勉強や部活など、努力することは多くなる。だから、自分の考えを大事にしながら物事を進めたい。そして、自分に最適な方法で、力を最大限発揮したいと思う。

H・M（都立小石川中等教育学校 合格）

私が小石川を受験しようと思ったのは、母にすすめられて学校説明会に行ったことがきっかけだった。そこでは小石川生が自分達で英語を使ったプレゼンをしており、とても自由で明るく、生き生きとしていたのだ。小石川のそんな明るい雰囲気には、私は強く惹かれた。そして、「この学校に行きたい」と。そう思うようになったのだ。それから私は小石川に合格できるように受験勉強を始めた。テストの成績が悪かった時、もし受からなかったらと想像して不安になることもあったが、成績で一喜一憂しないようにすると、少しずつ不安が薄れていった。そしていよいよ受験当日。平常心でいようと何度も深呼吸をしたが、今日が受験日当日だということ、今まで行ってきた受験勉強も今日で終わ리だということが何だか信じられなくて、大丈夫だという家族の言葉を自分に言い聞かせるようにつぶやいていた。適性検査が始まった時、不思議と冷静に頭が回っていた。途中で分からない問題にぶつかっても、すぐにちがう問題に取り組むことができたが、時間配分をまちがえてしまった問題も多くあった。合格発表日、私は自分が不合格だと知った。だが、その後繰り上げこう補者がいることができた。悲しみのどん底から一気に幸せになったような気分だった。そして繰り上げ合格したという通知がきたとき、とてもあこがれていた小石川に通うことができることがとてもうれしく、思わず母と共に飛びはねてしまった。私が小石川に合格することができたのは、多くの人の支えがあったからだと思う。塾の先生方、友達、家族に感謝の気持ちをもっていきたい。

Y・T（都立両国高校附属中学校 合格）

早友学院には、6年生の4月から通い始めました。通い始めてすぐのころはきんちょうしていましたが、やさしい先生たちと友人たちのおかげで、すぐに楽しく勉強ができるようになりました。私は、高校受験がしたくなくと思ったから中学受験をしようと思いました。はじめのころは「別に合格しなくてもいい」と思っていたんですが、勉強していくうちに力がついていき、自分に自信がついていきました。夏期講習や冬期講習など、大変なことはたくさんあったが、その分しっかりと自分の力になっているのを感じました。そして、そのことから、「合格して、楽しい学校生活を送りたい」と強く思うようになっていきました。私は、受験は孤独なたかいかではないということを知りました。自分の力は大切ですが、両親や塾の先生たちに支えられて受験は成り立つと学びました。これからも感謝を忘れずに過ごしていきたいと思います。

Y・T 保護者

6年生の4月中旬に本人より「受験しようかな？塾に行きたい。」と言われたので、そこから塾を探し、体験授業を経て5月に入塾しました。塾の先生方や同学年の塾生の皆さんが好きになり、授業のない日も自習に通うようになりました。塾の勉強は親には分からないので、子どもから聞かれたら一緒に考えよう、聞かれない限り口出ししないようにしようと思っていました。聞かれる事はありませんでした。1学期は塾の授業の日は公園で友達と遊んでから塾に行くのが習慣になりました。2学期になると、授業のない日も他の習い事が無ければ公園から塾に行き、自習をするようになり、11月頃からは学校から帰るとすぐに塾に行って自習するようになりました。「勉強しなさい」と親が言う事はありませんでした。習い事はサッカーとピアノと英語をしています。サッカーと英語は試験前の2ヶ月間お休みしましたが、どれも辞めずに3月末まで続けました。受験生だからといって特別扱いする事はありませんでした。冬は塾に行っていて、家にいる時間があまりなかったので、それまでのお手伝い（お風呂掃除やご飯の用意など）はほとんどしませんでした。が、ゲームやYouTubeの時間はこれまで通り決められた時間内で弟と譲り合ってやるようにしていました。登校班の班長をしていたので、朝、登校班に遅れる事がないように気を付けていました。班長が遅れても副班長さんが代わりてに連れて行ってくれるので、困る事はありませんが、自分の仕事に責任を持つことや、どうしてもやらなくてはいけない事ではないけれども、やる方がいい事をやるために頑張って時間をやりくりするという意識がついたらいいなと思ったのと、勉強で夜更かしして生活リズムが崩れるのを防ぐためです。6年生の4月中旬になってから受験しようかな？と言い出したので、入塾したものの、親は絶対受験させるとは思ってなくて、勉強の仕方を知る事ができればいいな、勉強が楽しく好きになったらいいなと思っていたので、勉強が好きになり、受験でここまで力がついた事だけで、大変ありがたいと思っていました。合格した時はとても驚きました。本人が決めて、一生懸命頑張って、結果を喜んでるので、親はその頑張りを尊敬し、決意と実行力を頼もしく思い、そして喜ぶ姿を嬉しく思っています。

S・M（都立白鷗高等学校附属中学校 合格）

私が、受験しようと思った理由は志望校の文化祭や体験授業を通して自分に合っていると感じたからだ。受験勉強で一番苦戦したのは算数だ。もともと受験勉強をはじめた時期が少しおそく、基礎が身についていないまま実践的な問題を解きはじめたためなかなか成績が伸び悩んでいた。そんな時家族がはげまされてくれたりして支えがともども大きな力になった。また、計算のエチュードなどを活用して計算ミスを減らし自信をつけることで苦戦した算数を乗りきることができた。作文は何度も過去問を解き先生に分かりやすく添削してもらい自分のパターンを見つけることができた。色々な人々に支えられ、本番では自分の力を発揮することができた。受験を通して様々な経験を つむことができ、結果として第一志望に合格することができ自分の人生の中でもとてもよい体験をさせてもらった。

H・A（都立小石川中等教育学校 合格）

私が早友学院に入塾したのは、六年の七月でした。それまでは中学受験を全く考えていませんでしたが、将来のことを考えて、受験しようということになりました。最初は別の塾に通う予定でしたが、その塾が休みの日に丁度授業があったので、早友学院にも通いました。また、別の塾では理系の勉強をしていたので、早友学院では読解作文の授業のみ集中して受けることにしました。入塾した直後の模試では、かなり好成绩でしたが、検査Ⅰの点数があまり良くなかったので、そこをもっとがんばろうと思いました。夏期講習のテストでは、作文を書ききることができなかった。他の問題との時間配分をよく考えるようにしました。そこから作文の対策を進め、直前模試では検査Ⅰの達成度が初めてAになったので、本番は自信を持って受験できました。検査Ⅰでは、開始から十分ほど経っても読解問題が解けなかったため、作文を終わらせてから読解問題に戻りました。検査Ⅱでは、大問二の割合計算を先に終わらせた後、大問一、大問三、大問二という順番で解きました。検査(Ⅲ)では、全ての問題を読んでから、簡単そうだった大問二を先に解きました。合格発表は、学校で休み時間にパソコンを使って見ました。「合格」のピンク色の画面が出てきたときは、とても嬉しかった。受験をすることで、知識を増やせるだけでなく、夢の実現に向かって諦めずに努力する心も養われると思います。私は、受験を通して、どこがだめだったのかを分析する力と、自分の目標を達成するために努力を続ける力を身につけることができました。小石川では、この二つの力を生かしていきたいです。早友学院と出会えて本当に良かったです。本当にありがとうございます。

H・A 保護者

息子が受験を決め、通塾開始が6年生の7月。空手稽古週6から、週5塾・週1空手と大転換でした。出遅れ、未知の学力、都立私立への向き不向き？分からない事だらけ。まずは都立私立の併願で開始しました。暗記系の理社と国語が弱点。まずは国語力強化を重視し、読解作文を集中して学びました。その結果9月には志望校A判定。その後は都立重視のスケジュールを組みました。夏期・冬期・正月講習では、本人と話し合い目一杯日程を詰め込みました。短期の取り組みで集中でき、成果に結び付いたようにも感じます。夏期・冬期・正月講習では3つの塾を併用し、先生・授業との相性の良し悪しにも正直に告げました。小石川中に合格でき、塾の先生方に感謝です。受験生にとって大事なのは先生との相性。やる気をひき出して貰えるかが一番大切だと思います。塾、先生選びに参考になれば幸いです。

K・S（都立両国高校附属中学校 合格）

私が早友学院に入ったのは、小学四年生のころでした。そのころはまだ受験についての実感がありません。て、遊び半分で授業をしていました。五年生になると、授業がいくぶん難しくなりましたが、できてきました。そして、六年生になり、受験が間近になりました。今までの定期試験や公開模試の結果からも分かるのですが、私は国語が苦手でした。試験で、全体的な成績は悪くないのですが、国語の点数だけ毎回、他の教科の点数より低くなっていました。そのため、受験当日までは、国語を重点的に毎日勉強することにしました。その結果、受験当日では苦手な国語を克服し、合格することができました。この合格は、ラストスパルトに苦手な国語をたくさん勉強したから勝ち取れたと言っても過言ではありません。そのため、受験での経験を生かし、苦手なことでもどんどん挑戦していくという新たな目標をたてることができました。

K・S 保護者

次男は3歳上の長男の影響もあり、両国高等学校附属中学校を目指し、5年生から本格的に受験勉強を始めることとなりました。少年野球チームに所属し、毎週土日は野球に励んでいたのですが、本人の希望もあり、卒団する12月初旬まで土日に野球を行っていました。そのため、土日講習や模試を受けることができないこともあったのですが、塾の先生にフォロー頂き、土日講習のフィードバックや模試を別日程で受けさせて頂くなど、柔軟にご対応頂きました。また次男は、特に国語が苦手。最後の模試までずっと満足な得点を取ることができませんでした。そうした中、弱点に対して先生方が大変熱心にご指導頂き、追い込みで集中して勉強したことにより、受験本番では高得点を獲ることができました。次男が合格できたのも、先生方の熱心なご指導と、少年野球との掛け持ちに対して柔軟なご対応を行って頂いた賜物だと思います。本当に有難うございました。

S・T（都立両国高校附属中学校 合格）

私は、東京都立両国高等学校附属中学校に縦上げ合格しました。どのように志望校を決めたのか、がんばったこと、気を付けること等をまとめていきます。まず、私がなぜこの学校を志望したのか。それは、家から近い上、高校受験をしなくて良いからです。この二つの条件があることで、大きな影響を与えられると思います。次ががんばったことについて、私はサッカーと勉強の両立をがんばりました。受験直前の十一月までサッカーを続けたことは勉強のストレス発散にもなりました。気を付けることに關しては、勉強以外に集中しすぎないことです。直前に勉強以外のことをしても良いことはないです。私は、直前まであまり受験に本気で取り組んでいませんでした。十一月までサッカーを続け、模試などであまり良い点を取れなかった私でも合格できたのだから、これから受けるみなさんならば努力次第で必ず合格できると思います。

I・M（都立両国高校附属中学校 合格）

私は、三年生の頃から両国中への受験を意識して早友学院に入りました。それからはほとんど勉強せず、成績は右肩下がりででした。五年生の後半から、少し受験を身近に感じ始め、勉強に専念するようになりました。そして六年生。六年生での受験に関する思い出は沢山あります。例えば、勉強しているの成果が出ない、ということ。ポジティブ人間な私でさえ、成果が出ないことに悩みを抱え、時には自分を責めてしまうこともありました。また、ライバルの友人から妬まれ、悪口を言われたりすることもありました。受験とはこんなに大変なものなのか、と思ひ知らされました。しかし、自分との葛藤、様々な波乱万丈な思い出の裏に、自分自身が成長するきっかけが沢山含まれていたと改めて感じます。そして、何より、私の頑張りを認めてくれ、集中できる環境作り、面白くするためになる授業をしてくれた、早友学院の先生方にはとても感謝しています。今までありがとうございました。

I・M 保護者

振り返れば、親子共々、本気モードになったのは一回目の模試以降でした。何事もスロースタートな娘なので、早めのスタートで丁度良かったと思います。模試は、外部のものより早友学院の方が本試験に則した内容で精度が高いので集中して良かったですし、先生のアドバイス通り、いろいろな教材に手を付けず、過去問着手時期も焦らず、夏休み頃から取り組んだのも、集中でき吸収できた要因だと思います。親としては特に冬休み以降、睡眠時間の確保、朝型生活へのシフトと、感染症対策を含めバランスの良い食事を心掛けました。学習の計画等は、模試→面接等で弱点を確認し、補強（解き直し）のサイクルで夏休み頃から自身で考えて進めていけるようになっていきました。これが一番の成長だと感じています。また、先生方には過去問のタイムリーな解答、アドバイス且つ的確な添削を頂き、お陰様でどんどん理解を深め、合格できたと痛感しております。本当にありがとうございました。

A・I（都立白鷗高等学校附属中学校 合格）

私は五年生の六月から早友に通い始めましたが、都立受験をすると決めたのは六年生の夏頃でした。ずっと続けてきた習い事をやめたくなかったので両親と相談し、塾と他の習い事を両立して行っていました。最初の頃は勉強に意欲的でなく、成績も伸び悩んでいたのですが、私は受験に向いていないのかもしれない、と悩んでいました。ですが、日曜特訓や自修会で色々な先生に作文の添削や問題の解説をしてもらい、自分の苦手分野や弱点、それを克服するための自分に合った勉強方法を見つけれたのが合格への大きな一歩だったと思います。自修会に参加して友人と切磋琢磨することはもちろん、家でも質の高い勉強ができるよう、集中できる環境を整えて過ごしました。今回の受験を通し、悩むことや苦勞することがあっても諦めずに努力し続けることが大切だと学びました。優しく寄り添い、合格まで導いてくださった先生方、本当にありがとうございました。

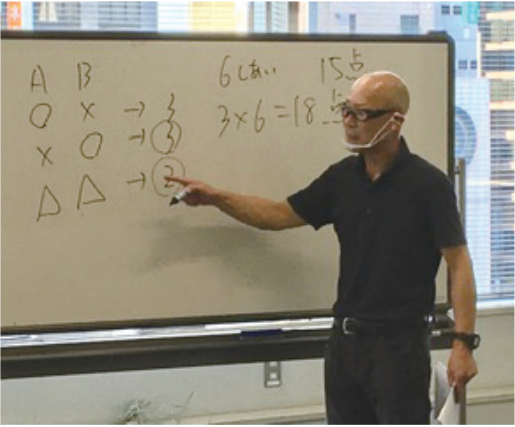
A・I 保護者

カリキュラムや子供の将来を考えると、都立中高一貫校は魅力的で、出来れば通わせてあげたいという気持ちはありましたが、小学生のうちに色々な経験や体験をしてもらいたかったのと、子供がやりたいことをセーブさせたくないだったので、本人とも相談し、旅行に行ったり、習い事も続けながら、受験勉強に励むことにしました。その中でダメだったときは地元の公立中に通い、行きたい高校を目指そうと親子で合意していたので、本人もプレッシャーは少なかったようです。受験するのも中学校に通うのも子供自身なので、志望校選びや勉強のやり方など、なるべく口を出さないようにして、本人の意志で決めて進めました。親は受験直前の体調管理、不安を感じた時の話し相手をしたくらいだったので、本人の納得できる形で受験に挑めたのと、志望理由がしっかりあって、行きたい気持ちが強かったのがよかったのかなと思います。先生方の任せきりの約1年半でした。丁寧な指導やアドバイスに大変感謝しております。本当にありがとうございました。

小6生「連休特訓」のお知らせ

来春の受験に備えて、小6生対象の「連休特訓」を開催いたします。

日々、お話していますとおり、受験勉強には毎日の積み重ねが重要です。そのことが基礎を固めさせ、理解に加速がついてきます。特に今回の特訓授業は受験生としての意識を高める重要な授業です。生徒・保護者・教師が丸となって、生徒のモチベーションを上げていき、合格を勝ち取りましょう。そして、悔いのない一年にしていきましょう。



○連休特訓

受験まで残りは1年もありません。1日たりとも無駄にはできません。毎日の学習を積み重ねていく中で、勉強に手をつけない日があることはなるべく避けた方がリズムを保てます。トップアスリートたちが毎日練習に取り組むように、受験生たちも間を空けず勉強に取り組んでもらいたと思います。5月12日（日）には第1回公開模試も控えていますので、本番さながらの実践演習、解説および解き直し授業で、受験生としての士気を高めていきましょう。

小6生

<日 程>

5月3日・4日・5日 13：00～17：00

<会 場>

カメラアプラザ（亀戸駅徒歩2分）5/3、5/5

総合区民センター（西大島駅徒歩1分）5/4

<費 用>

29,040円（税込）

<申し込み>

早友学院ホームページ（<https://www.see-soyu.co.jp>）
連休特訓申込フォームより参加申し込み受付中



令和6年度 都立中高一貫受験(検)の動向

追試験制度について

コロナが5類となった初めての入試ではありますが、今年度入試では新たな措置が取られました。「インフルエンザ等学校感染症罹患患者等に対する追検査」（以後「追検査」）が取られました。そのため、一般枠から2名程度の枠が追検査の枠として確保されました。追検査は該当者が別途措置の申し込みが必要となり、倍率はかなり低くなりますが、定員と応募者が同数であっても、必ずしも全員が合格するわけではありません。追検査合格者が追検査の募集数に達しなかった場合は、一般枠で繰り上げ候補者となったものから、繰り上げとなります。

2月9日に繰り上げ候補者が発表され、追検査の結果が出るのは、2月22日。追検査の入学手続き終了が2月26日なので、最終的な繰り上げの事務終了は最短でも2月末までとなります。私立の学校の併願者で入学手続きその他を済ませた後に、繰り上げの連絡が来るということもあります。一部の受験生・保護者にとっては生殺しの日々が続くことになります。公立一貫学校関係者も、入学手続き終了までの日程が長期にわたることについては検討しなければならないとのことでした。

男女別定員の終焉

大げさな見出しになりましたが、都立一貫校は今年度で男女別の募集が終了します。先行して、千代田区立九段中等教育学校は、令和5年から男女合同選抜となりました。都立高校も男女合同選抜となりましたが、学校別の男女比は公表されていません。九段中等教育学校は、女子が大幅に増えるであろうことを見越して、トイレの改装をしています。都立中学もバランスが崩れると、同様な工事が必要となるでしょう。施設的な面の心配もさることながら、体育の授業などで、男女別の授業が必要な場合のカリキュラムなどの懸念も挙げられています。

白鷗の適性Ⅰの共同作成問題への移行

白鷗は昨年まで、適性検査Ⅰは独自問題を作成し、使用してきましたが、今年度入試から共同作成問題へ移行しました。この移行によって、共同作成問題が、白鷗の昨年までの百字程度の記述を入れてくるのか、それとも、今までの共同作成問題に単に乗っかるのか、注目されました。報告会でもご案内したように、共同作成問題の解答形式については、今まで通りで、白鷗の影響はなかったように思えます。出題委員がどの学校のどの先生かはわかりませんし、どの程度の頻

度で入れ替わるかわかりませんので、今後白鷗タイプの問題が入ってくる可能性も否定できません。これは白鷗の共同作成への参加の影響というよりは、共同作成問題の傾向が変わるか変わらないかの問題となるでしょう。

ちなみに、今年は短歌の鑑賞を含む随筆的な文章となっていますが、読解部分は精読を要求するということで、変わりはなく、あくまで素材がいままでに使われなかったものが利用されたと考えたほうがよいでしょう。短歌の解釈を要求するのではなく、あくまで説明されていることの理解を問う問題です。難しく感じた生徒も多かったとは思いますが、得点としてはそれなりの得点が見込まれると思います。

適性検査Ⅱもここ数年続いた難問・低得点から離脱し、得点しやすい問題になっています。適性検査の性質上、難易度の調整は非常に難しく、年度によっては平均点が低かったり、高かったりします。秋以降に過去問に取り組んでいただきますが、このことを十分勘案して、合格点に達しているかいないかを考えてください。特に平均点がどの検査も低い場合、報告書点の占める比重が高まりますので、しっかりと学校の報告書点对策も怠らないようにしてください。

執筆：東陽教室長 依藤 聡